

第3学年 公民科 学習指導案

関西大学

教員実習生

指導者 教諭

日時 令和7年6月13日(金) 4校時
対象
場所 社会科教室
科目 政治・経済
教材名 「高等学校政治・経済」(第一学習社), p. 64~91
「政治・経済ノート」(第一学習社), p. 46~65
「ズームアップ政治・経済資料」(実教出版), p. 156~205

1 単元名

市場経済の機能と限界

2 単元の目標

経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税の意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせるとともに、それらが人々の暮らしや企業活動とどのように関わっているかについて、多面的・多角的に考察させる。

3 単元設定の意図

(1) 《生徒観》

本クラスの生徒は、意欲的かつ積極的に授業に取り組む姿勢を有しており、中には自ら発言する生徒も見受けられる。指示が明確であれば、生徒同士あるいは教員との間で主体的にコミュニケーションを図ることができる。また、2年次において「公共」の学習を終えており、政治・経済に関する基礎的な知識は概ね習得している。ただし、専門的・具体的な知識については未習得であるため、現代社会の具体的な事例と関連づけながら、深い理解を促す授業展開が必要である。

(2) 《教材観》

本教材は、基礎的な内容から時事的なテーマまで幅広く取り上げており、2年次の「公共」で身につけた知識をもとに、より深い学びへとつなげていくのに適している。

「政治・経済ノート」は用語や図が整理されていて、重要なポイントを押さえやすく、知識の定着に効果的である。また、「ズームアップ政治・経済資料」は、最新のデータや社会的な話題が豊富に掲載されており、社会とのつながりを意識しながら学習を進めることができる。

さらに、これらの教材をICTと組み合わせることで、企業活動や経済循環といった抽象的な内容も視覚的にとらえやすくなる。これにより、生徒の理解が深まるだけでなく、意見交換や主体的な思考も活性化される。

(3) 《指導観》

本単元では、経済主体・経済循環・企業のしくみ等については、基礎的な知識の習得に重点を置く。また、物価や景気変動といった内容については、グラフや統計資料を活用して視覚的に示し、生徒の考察力を養うことを目指す。

さらに、生徒間の意見交換の機会を多く設けることで、知識の定着だけでなく、主体的かつ対話的な学びを促す授業を展開する。これにより、現代社会における経済の仕組みに対する理解を、実感を伴った形で深めさせたい。

4 単元の評価規準

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------|--|--|--|
| 単元の 評価規準 | 身のまわりで起きる「物の流れ」や「お金の動き」を、経済主体や市場、財政や金融といった視点から読み解き、GDP や景気、税の役割といった概念/知識を、自分ごととして理解している。 | ①経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。 ②市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 | 現代社会の経済に関する課題に関心を持ち、身近な課題に対して探究しようとする姿勢をもって学習に取り組んでいる。また、資料の活用や他者との対話を通じて学習を深めている。 |

5 指導と評価の計画（全6時間）

| 時間 | 学習内容 | 評価 | | 評価方法 |
|-------------|---|----|-----|---|
| | | 知 | 思 態 | |
| 1 | 経済活動と市場 | ○ | ◎ | 知：問題演習、定期考査による知識問題 思：需要曲線/供給曲線に関する問題(共通テストの過去問等) |
| 2 | 経済主体と経済循環(1) └経済主体、企業の種類 | ○ | ○ | 知：問題演習、定期考査による知識問題 態：問題に際して他生徒と活発なコミュニケーションを取り、知識を深めようとしているか。 |
| 3 本 時 | 経済主体と経済循環(2) └株式会社のしくみ、企業統治、企業の社会的責任 | ◎ | ○ | 知：問題演習、定期考査による知識問題 思：知識を現代社会の具体的事例と関連づけられているか。/他生徒とのコミュニケーションにより知識を深めようとしているか。 |
| 4 | 国民経済の大きさと経済成長 物価と景気変動 | ◎ | ◎ | 知：問題演習、定期考査による知識問題 思：経済成長率の計算や景気に関する基礎知識をもとにした応用問題演習を通して、理解を深めようとしているか。 |
| 5 | 市場の失敗と公害 | ◎ | | 知：問題演習、定期考査による知識問題 |
| 6 | 消費者問題 | ◎ | ○ | 知：問題演習、定期考査による知識問題 態：消費者問題を自分ごととして捉え、他生徒と活発にコミュニケーションを取り、知識を深めようとしているか。 |

6 本時案（本時は全6時間中の3時間目）

(1) 目標

- ・所有と経営の分離という重要な概念を軸として、株式会社のしくみを理解する。
- ・株式市場や企業統治、企業の社会的責任について、事例とともに理解する。
- ・企業に関する共通テストの過去問を解いた上で、他生徒と解答について話し合い、問題の本質や構造まで理解しようとしている。

(2) 学習過程

| | 学習内容・学習活動 | 予想される学習者の反応 | 教師の支援 |
|--|---|---|--|
| 導入 3分 | ・前時の復習 ↳経済主体の種類、企業の種類はどのようなものがあったか。 | ・経済主体は「家計/企業/政府」の3つであり、企業の種類は公企業/私企業からさらに細分化されていることを確認する。 | ・本時の前提知識となる経済主体/企業の種類を再度理解させる。 |
| 展開 35分 | 【株式会社のしくみ】 ・株主、株主総会、取締役、監査役といった株式会社のしくみを理解する。 ・「所有と経営の分離」の考え方を理解する。 | ・語句の意味や概念について理解する。 | ・語句や概念について具体的に説明する。 |
| 所有と経営が分離されていなければ、どのような事態に陥る可能性があるだろうか？ | | | |
| | ・解答例 ↳資本調達に限界がある、不正が起きやすくなる、不透明な経営になりかねない、経営の専門性が低下するなど→企業のガバナンスが弱まる | ・所有と経営が分離していなければ、経営者の独裁状態になると予想する。 | ・ペアワークを行わせる。 ↳机間指導を行い、議論が進んでいないペアには、所有と経営を分離させることのメリットを提示し、その反対を考えさせる。 |
| | 【株式市場の役割】 ・上場、ベンチャーキャピタルなどについて意味を理解する。 ↳東京証券取引所のしくみを例に、上場の種類を知る。 ・株式の売買について理解する。→M&Aやコングロマリットなど ↳最近トレンドのM&Aに関して、楽天/ニトリ/Yahoo!の実例を知る。 ・インサイダー取引/株価について理解する。 | ・語句の意味や概念について理解する。 ・上場といえば「東証一部」や「東証プライム」などが連想されるが、実際にどういう仕組みになっているか曖昧→明確に理解できる。 ・M&Aという概念を知っている企業の例を用いて理解する。 ・語句の意味や概念について理解する。 | ・語句や概念について具体的に説明する。 ・上場について、東証の問題点や編成ポイントなどを分かりやすく説明。 ・事例を用いることで、生徒の理解を深める。 ・語句や概念について説明する。 |
| 共通テストの過去問を解く→他生徒と相談→解答 | | | |

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| | <p>【企業統治の実現をめざして】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートガバナンスについて具体的に理解する。 ↳ ディスクロージャーなど | <ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味や概念について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・語句や概念について具体的に説明する。 |
| | <p>【企業の社会的責任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSRについて、フィランソロピーやメセナといった概念の理解。 ↳ 企業の実例を見ることで、覚えやすくなる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・有名企業の活動を例にして覚える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実例を用いることで、生徒の理解を深める。 |
| | <p>【問題演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートの55ページにある問題を解く。 ・共通テスト過去問を解く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解き、他生徒と相談する。→ 解答を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、適宜サポートする。 ↳ 解答の説明など |
| まとめ 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことを復習する。 (質問があれば最後 or 授業後) | <ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだ株式会社に関する知識や企業を取り巻く役割や責任について復習する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめを端的に行う。 |